

重点プロジェクト



1 重点プロジェクトの位置付けとその役割

世界が未曾有の感染症のショックと、それに伴う予期せぬ環境変化や健康面等でのストレス、不安定な社会経済活動に直面しました。中でも、我が国は、人口減少社会・スマート社会が到来する中で、ポストコロナ時代も不確実性の時代へと向かうことが予測されるところです。

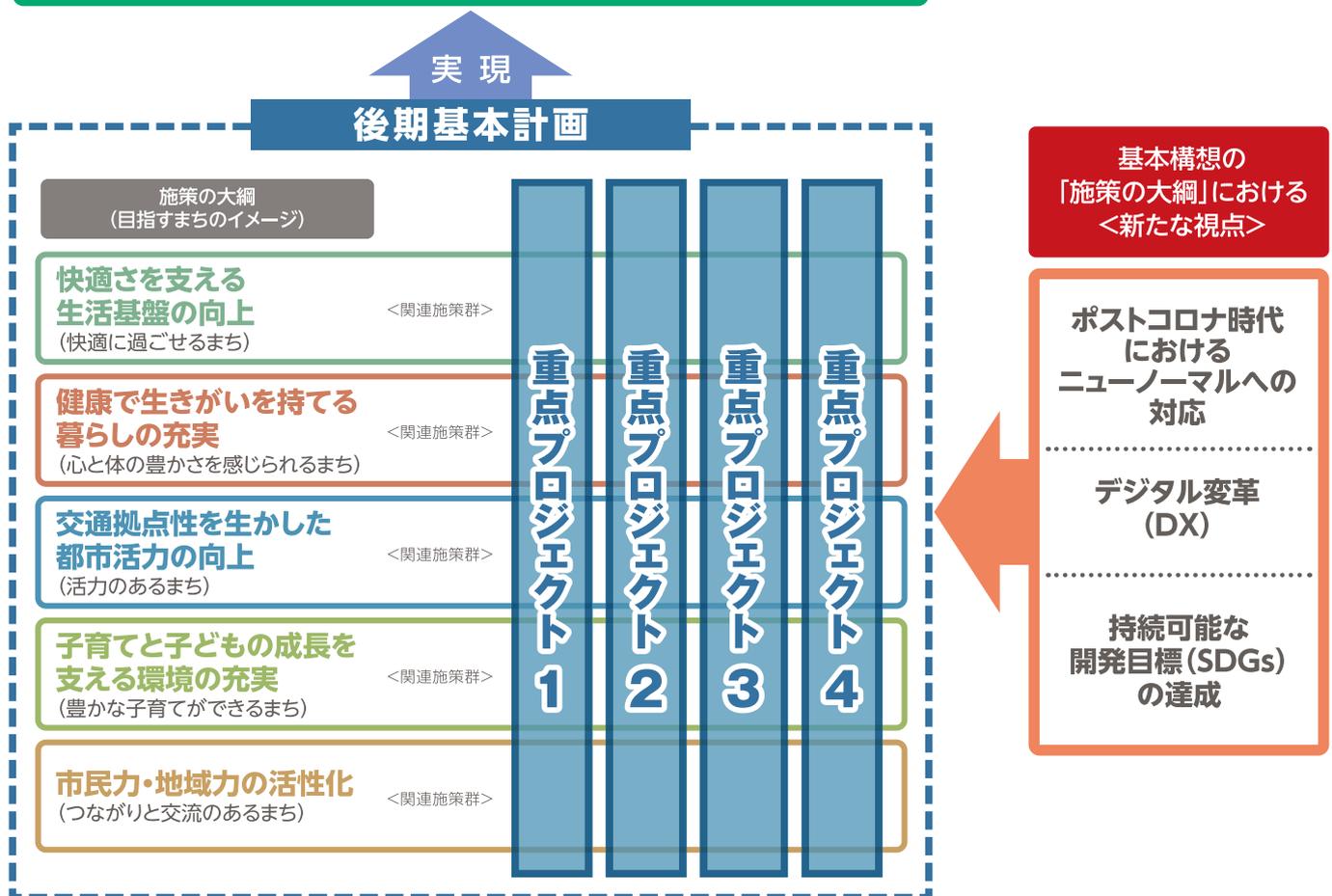
また、パラダイムシフトとも言える急激な環境変化は、人々の行動変容だけでなく、真の豊かさや幸せの本質、都市の持続性、人と人との関わりのおお切さ、ワーク・ライフ・バランス^{*1}などを見つめ直す契機となり、ポストコロナ時代のニューノーマル^{*2}（新たな日常）に向けた胎動も始まっています。

こうした中、本市が将来都市像の実現に向けたまちづくりを一層推進していくためには、これら外部環境の変化に素早く適応し乗り越えられる弾力性や強じんさ等の「しなやかさ」と、感染症の早期克服による「まちの活力」を高めていくことが必要となっています。さらには、今後も持続的に発展し続けられるよう、自然・歴史・産業が調和した「まち」も、そこに暮らす「ひと」も健康な状態にある「健康都市」の形成が求められます。

こうした考え方にに基づき、計画性と独自性を持ってまちづくりを進めていくため、後期基本計画に重点的かつ分野横断的に取り組む4つの重点プロジェクトを位置付け、さまざまな地域資源の活用や多様な主体との連携・協働、行政の経営資源の重点化等により、その優先性と効果を発揮させながら関連施策を推進することで、後期基本計画の実効性の向上を図ります。

【後期基本計画上の重点プロジェクトのイメージ図】

【将来都市像】 歴史・ひと・自然が心地よい 緑の健都 かめやま



*1 ワーク（仕事）とライフ（仕事以外の生活）を調和させ、性別・年齢を問わず、だれもが働きやすいしくみをつくること。

*2 社会に大きな変化が起こり、その変化が起こる前と同じ常態に戻ることができず、新たな環境や常識が定着すること。特に、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行と長期化により、ソーシャルディスタンスの確保や3密回避などの行動変容、デジタル化や地域医療体制強化の加速化など、人々の行動や認識、価値観に変化が生じている。

2 重点プロジェクト

重点プロジェクト 1

『健都さぶり+』プロジェクト

【プロジェクトのねらい】

本市は、WHOが提唱する「健康都市」の考え方に賛同する「健康都市連合*1」の加盟都市であり、市民の健康寿命*2を延ばすさまざまな取り組みを進めています。一方、長期化するコロナ禍を経験し、多くの方々が自らの健康をコントロールし、生活習慣を改善する等の実践が起きました。そこで、こうした行動変容を一過性にすることなく、すべての市民がより健やかで心豊かに生活できる地域社会の構築に向け、健康都市政策の一層の推進を図ります。

【プロジェクトの取り組み】

◆健康都市大学の創設

WHOの健康都市の考え方を踏まえ、都市にある様々な資源を幅広く活用し発展させていく都市を目指していくため、「緑の健都」にふさわしい健康都市大学を創設し、健康を軸とした市民の新しい学びと交流の場の創出を図ります。

◆ヘルスプロモーションの推進

感染症の克服に向けた免疫力の維持や疾病予防をはじめ、食・スポーツ・読書等による健康づくり、ユニバーサルデザインに配慮した都市づくり、公園施設の充実など、健康づくりの機会の創出や環境整備等を図ることで、自らの健康を改善しようとする活動の裾野を広げ、市民の健康寿命の延伸と健康格差の縮小につなげます。



*1 2003（平成15）年にWHO西太平洋地域で設立された健康都市づくりに取り組む都市間の国際的なネットワークのこと。国際的な協働を通して健康都市の発展のための知識や技術を開発することを目的としている。

*2 世界保健機関（WHO）が2000（平成12）年に提唱した指標で、日常的な介護を必要とせず、心身とも自立して暮らすことのできる期間のこと。現在では、単に寿命の延伸だけでなく、健康寿命をいかに延ばすかが課題となっている。

重点プロジェクト 2

『まち紡ぎ』プロジェクト

【プロジェクトのねらい】

コロナ禍での移動制限や非対面の増加等は、市民活動・地域活動において、人と人とのつながりや交流、助け合い・支え合い、地域文化の維持・継承等に影響を与えました。そこで、ポストコロナ時代においても、地域の絆が強まり、地域資源が磨き上げられる地域づくりを促進するとともに、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)^{*1}等による多様化・複雑化する地域福祉課題への対応により、安心の共生社会の構築を目指します。また、街道文化や新たな文化年への取り組みを進めるなど、ここにしかない地域力・文化力の向上を図ります。

【プロジェクトの取り組み】

◆地域まちづくり活動や助け合い・支え合い活動の促進

ポストコロナ時代においても、地域まちづくり活動や市民活動が活発に行われるよう、その活動支援や担い手の育成を図るとともに、複雑化・多様化する支援ニーズに対応する重層的な支援体制の確立や、「ちょこボラ^{*2}」など地域での助け合い・支え合いを促進します。

◆かめやま文化の魅力向上

東海道を基軸とした歴史的風致の維持・向上や、関宿重要伝統的建造物群保存地区などの街道文化や伝統行事や祭り等の地域文化の保存・継承を図るとともに、まちの賑わいや魅力の創出につなげる新たな文化年を展開するなど、かめやま文化の魅力向上と見える化を図ります。



*1 生活上の課題を抱える個人や家族を支援する「個別支援」と、それらの人びとが暮らす生活環境の整備や住民の組織化などを行う「地域支援」を展開・実践するために配置された市の職員又は関係団体のメンバー。

*2 地域まちづくり協議会で行う、生活上のちょっとした困りごとを助け合いで解決する仕組みのこと。

重点プロジェクト 3

『しなやか田園都市』プロジェクト

【プロジェクトのねらい】

本市が持続的に発展していくためには、巨大地震等の自然災害の発生時においても、致命的な被害を負わない強さと速やかに回復するしなやかさを備えるとともに、豊かな自然や歴史文化などの都市の環境と、東西交通の要衝の交通拠点性を強みとした人流や産業集積を生かしたまちづくりが必要です。そこで、事前防災・減災の観点からの都市の強じん化を図るとともに、交通拠点性の更なる発揮と環境と調和した産業振興を図り、将来を見据えた魅力的で持続可能なまちづくりを進めます。

【プロジェクトの取り組み】

◆都市レジリエンスの向上

都市インフラの強じん化や内陸部の高速道路と市街地を結ぶ新たな東西軸としての役割が期待される鈴鹿亀山道路の整備促進など、大規模自然災害に対する事前防災・減災対策を進めることで、内陸部の特性を生かした災害に強いまちづくりを進めます。

◆環境と調和した産業振興

経済情勢の変化にも対応できる産業構造の構築と産業基盤の確保を進めるとともに、産業活動に伴う脱炭素化・SDGs^{*1}の取り組みの促進や、亀山ブランドの創出、グリーンツーリズム^{*2}の展開による地域資源を生かした取り組みなど、環境と産業が調和した持続可能なまちづくりを進めます。



*1 Sustainable Development Goals (持続可能な開発ゴール) の略。2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことで、17のゴール・169のターゲットで構成されている。

*2 緑豊かな農村に滞在し、自然、文化、地域の人々との交流を図る旅行のスタイルのこと。

重点プロジェクト 4

『未来へのトビラ』プロジェクト

【プロジェクトのねらい】

人口減少や少子高齢化が進展する中において、まちが明るい未来へと向かうためには、子どもたちの健やかな成長と子育て世帯を支える環境づくりが重要です。そこで、県内を先導してきた「子育てにやさしいまち」「教育のまち」として、豊かな子育て環境や教育環境の充実を図るとともに、子どもたちがその可能性を広げることのできる環境を整え、子どもたちの笑顔がさらに広がるまちづくりを推進します。

【プロジェクトの取り組み】

◆子育て・教育環境の充実

妊娠（胎児）期から子育て期を中心とする成育サイクルにおける円環的で切れ目ない支援や保育ニーズへの対応、中学校における全員喫食制給食の実施に向けた取り組み、情報教育の推進など、本市の特徴である豊かな子育て環境や教育環境の充実と、ワーク・ライフ・バランス*1に向けた機運醸成を図ります。

◆子どもたちが未来へチャレンジできる環境の充実

ジュニアスポーツの活性化や、新図書館での読書活動、地域をフィールドとした体験学習、文化芸術に触れる機会の創出など、様々な分野において、子どもたちがふるさと亀山を愛し、未来に向けてチャレンジできる環境の充実を図ります。

